

# 平和を求めて 27 私の町の戦争跡

## 過密都市東京の 防空・空地帯に

都民の憩いの場所の公園。緑陰を求める人たちが木陰でひとときを過ごしています。  
こんな公園にも戦争の歴史があります。(本文は東京歴史教育者協議会編「東京の近現代を歩く」を参考にしました。)

真珠湾攻撃(一九四一年十二月八日)で日本は太平洋戦争へと突入しました。戦争と深く結びついた愛国心の高揚が謳われ、また戦時における過密になった東京のあり方



## 都内各地

# 戦時下の東京の公園も戦争に動員された 公園の樹木で棺桶づくり 薪炭づくりなども

がとわれ、防空の立場から山の手と新市域に四六カ所の公園、六ヶ所の緑地(砦、神代、小金井、舎人、水元、篠崎)を計画し、一九四三年には、高射砲陣地の配置を目的とした防空空地、延焼防止と防空戦闘機の配置を目的にした防空空地地帯の設置を盛り込んだ「防空法」が制定されました。



この公園の樹木で棺桶がつくられた一井の頭公園

## 薪炭用供出に 使われた公園樹木

一九四四年一月、公園内の樹木の薪炭用供出がはじまりました。南部公園管理事務所関係での公園薪炭供出実績は、芝公

園↓薪炭一〇五〇〇束、愛宕公園二四六四束、戸越公園四五〇〇束、日比谷公園一二〇〇束、神宮表参道一九九二束とあります。

## 井の頭公園では 棺桶がつくられた

井の頭恩賜公園では製材所が設置され、同公園から伐採した杉材を使って棺桶がつくられました。  
一九四四年十二月の調べでは、伐採杉材の59割の二二六三本(二七一二石)が木棺用にあてられました。

## 墓地になった公園

東京大空襲直後は、多くの死体が道路などに死体があふれていました。遺体を収容し仮埋葬をすることにりましたが、公園が一時墓地にされました。仮埋葬されたのは、錦糸公園一二一八五体、猿江公園一一〇八七体、上野公園八三八六体など、戦災者九万人のうち五四六五八体が東京都公園緑地課所管の公園・墓地に仮埋葬されたといえます。

## 日比谷公園の銀杏

一九四一年四月十八日、空母を飛び立った爆撃機が東京上空に現れた初空襲のことは、二三六号でも紹介しましたが、その日の午後日比谷公園松本楼脇の大銀杏が皇居防衛の高射砲の邪魔になることを理由に「梢をきりとれ」の命令が出されました。  
いまは静かなたたずまいの都内の公園にも戦争の痛みがありました。



日比谷公園内の松本楼